暮らしの中にスポーツを！

スポーツ愛好者を紹介

きょうは「体育の日」
多くの市民が、いろんな形でスポーツに参加して汗を流し、体づくりや明日の活力源、人生の糧としてスポーツを暮らしの中に取り入れています。
そんなながから今回は「ゲートボールで若返りを図るお年寄りのご夫婦」「学校開放を利用してバレーボールを楽しむ親子」「王国復興を目指して張り切るジュニアレスリング教室の子供たち」「地域ぐるみサッカーに取り組んでいる南浜地区」「柔道をとおして下町に活気を取りもどそうとする北部柔道クラブ」――以上の五つのグループを紹介します。

〝柔道〟で下町に活気

北部柔道クラブ

現在会員数は小学生を中心に約百五十人。それまでは、市公会堂隣にあった柔道場まで練習に通っていました。しかし、車が増えて危険なことや時間的にもムダが多いことなどから、昔、柔道をやっていた人たちが中心になって〝地域ぐるみ〟で始めたものです。

指導員は、十二人で全員三段以上、最高で六段の猛者連とか。練習日は、毎週月・火・金曜日の午後七時から九時まで。会員は、幼稚園児から大人までで、小学校四年生が一番多く、女の子も五人。

サッカーでは不毛の地新潟、そんななかで、名ストライカー**有田一矢**君（大阪商大）を生んだ南浜地区。その秘密を探りに南浜小学校を訪ねたら、黄色いユニフォームに身をつつんだいがぐり頭の子供たちがまい校庭で無心にボールをけっていました。

豊栄市、聖篭町に隣接し、とりたてて盛んなスポーツのなかったこの地区が、まちぐるみサッカーに取り組んで十余たちました。その間、市内の少年サッカーでは先駆者的役割を果たし、規模校の十指の中に入っています。すなわち、男子の運動部はサッカー部だけなので、これに全勢力を投入できる。父兄もまとまりがよく親の会をつくり側面から全面的に協力を惜しまない校庭で無心にボールをけっていました。

練習は、初め全員で道場内をランニングして体をほぐし、それからお互い相手と組んで〝乱取り〟。気合いをかけ、汗びっしょりになりながら練習にはげんでいました。

このクラブは、大会になると市内はもちろん、県下でも〝ナンバーワン〟という強豪。その強さの秘訣を、指導員の**登坂登美男**さんは「低く飛び込め」、「足を引いてぐっとひねれ」、池田先生のきびしい声がマット上に響く。真っ赤なユニフォームに身をつつんだチビッ子たちの体から熱い汗がしたたり落ちていく。

毎週土曜日午後三時から、市体育館の北練習場で、レスリング教室が開かれています。

ここに通う子供たちは小学校一年から中学三年までの二十一人。

この教室が生まれたのは今年四月、県レスリング協会（**飯塚実理事長**）が王国復興を目指して最後に出した切り札です。

昔から、新潟といえばまずレスリング、風間、飯塚、笠原、飛田と名選手が続出しました。昭和三十年代の中ごろまでは国体で必ず三、四個の金メダルを獲得してきました。しかし、最近の停滞は目をおおうばかりです。

協会がこの教室に目をつけたのは、高校から基本を認めています。

コーチの**池田進**さん（**笹口小教諭**）は「レスリングスタッフと自他ともに認めています。

「レスリングは基本をしっかり教えてかこの種の教室が生まれ、特にトップレベルを誇る青森では教室に五、六十人の部員がおり、そこからどんどん強い選手が生まれている。

来年からはジュニアの全国大会に出場させたい。四、五年先に効果が現われてくることを期待しています。

ともかく、ファイトと根性のある人はぜひ、練習場に来てください」と、呼びかけていました。

王国復興をめざして！

ジュニア・レスリング教室

という現実です。

新潟の教室の指導陣は四人、いずれも現役時代頂上をきわめ、日本一のコーチングスタッフと自他ともに認めています。

コーチの**池田進**さん（**笹口小教諭**）は「レスリングは基本をしっかり教えてかでも全然危なくありません。

毎週土曜日午後三時から、市体育館の北練習場で、レスリング教室が開かれています。

ここに通う子供たちは小学校一年から中学三年までの二十一人。

この教室が生まれたのは今年四月、県レスリング協会（**飯塚実理事長**）が王国復興を目指して最後に出した切り札です。

昔から、新潟といえばまずレスリング、風間、飯塚、笠原、飛田と名選手が続出しました。昭和三十年代の中ごろまでは国体で必ず三、四個の金メダルを獲得してきました。しかし、最近の停滞は目をおおうばかりです。

協会がこの教室に目をつけたのは、高校から基本を認めています。

コーチの**池田進**さん（**笹口小教諭**）は「レスリングは基本をしっかり教えてかでも全然危なくありません。

毎週土曜日午後三時から、市体育館の北練習場で、レスリング教室が開かれています。

ここに通う子供たちは小学校一年から中学三年までの二十一人。

この教室が生まれたのは今年四月、県レスリング協会（**飯塚実理事長**）が王国復興を目指して最後に出した切り札です。

昔から、新潟といえばまずレスリング、風間、飯塚、笠原、飛田と名選手が続出しました。昭和三十年代の中ごろまでは国体で必ず三、四個の金メダルを獲得してきました。しかし、最近の停滞は目をおおうばかりです。

協会がこの教室に目をつけたのは、高校から基本を認めています。

コーチの**池田進**さん（**笹口小教諭**）は「レスリングは基本をしっかり教えてかでも全然危なくありません。

毎週土曜日午後三時から、市体育館の北練習場で、レスリング教室が開かれています。

ここに通う子供たちは小学校一年から中学三年までの二十一人。

この教室が生まれたのは今年四月、県レスリング協会（**飯塚実理事長**）が王国復興を目指して最後に出した切り札です。

昔から、新潟といえばまずレスリング、風間、飯塚、笠原、飛田と名選手が続出しました。昭和三十年代の中ごろまでは国体で必ず三、四個の金メダルを獲得してきました。しかし、最近の停滞は目をおおうばかりです。

協会がこの教室に目をつけたのは、高校から基本を認めています。

コーチの**池田進**さん（**笹口小教諭**）は「レスリング

タックルの練習に励む子供たち

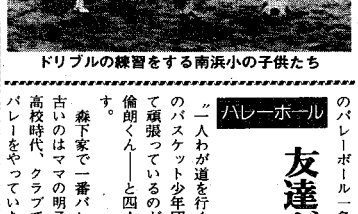
まちぐるみでサッカーを！

南浜地区少年サッカー

すなわち、男子の運動部はサッカー部だけなので、これに全勢力を投入できる。父兄もまとまりがよく親の会をつくり側面から全面的に協力を惜しまない校庭で無心にボールをけっていました。

豊栄市、聖篭町に隣接し、とりたてて盛んなスポーツのなかったこの地区が、まちぐるみサッカーに取り組んで十余たちました。その間、市内の少年サッカーでは先駆者的役割を果たし、規模校の十指の中に入っています。すなわち、男子の運動部はサッカー部だけなので、これに全勢力を投入できる。父兄もまとまりがよく親の会をつくり側面から全面的に協力を惜しまない校庭で無心にボールをけっていました。

豊栄市、聖篭町に隣接し、とりたてて盛んなスポーツのなかったこの地区が、まちぐるみサッカーに取り組んで十余たちました。その間、市内の少年サッカーでは先駆者的役割を果たし、規模校の十指の中に入っています。すなわち、男子の運動部はサッカー部だけなので、これに全勢力を投入できる。父兄もまとまりがよく親の会をつくり側面から全面的に協力を惜しまない


ドリブルの練習をする南浜小の子供たち

南浜の三小学校が新潟の発展に尽した役割は計りしれないものがありますが、これからもサッカーのメッカとして、より一層の活躍が、さらには、浦和市、藤枝市のような全国のトップクラスに目を向けたチーム作りが期待されます。

員谷東吾さん（南浜小校長）は「こんな小さな学校でも大きな学校を負かすので、子供たちに自信が備わってきた」と話していました。

「優勝は南浜地区から」をモットーに、毎土曜日は三校で練習試合をし、お互いに技を競い合っています。この競り合いが非常に良く、ほとんど三校で優勝を独占する結果となっています。

南浜の三小学校が新潟の発展に尽した役割は計りしれないものがありますが、これからもサッカーのメッカとして、より一層の活躍が、さらには、浦和市、藤枝市のような全国のトップクラスに目を向けたチーム作りが期待されます。

員谷東吾さん（南浜小校長）は「こんな小さな学校でも大きな学校を負かすので、子供たちに自信が備わってきた」と話していました。

友達が増えました！

森下さん一家

ハレーボール

〝一人わが道を行く〟と市のバスケット少年団に入って頑張っているのが次男の倫朗くん――と四人家族です。

森下家で一番バレー歴の古いのはママの明子さん。高校時代、クラブで三年間バレーをやっていたというスポーツウーマンです。今月曜日に関屋小の体育館で練習。「とても熱心で、仕事で遅くなるとタクシーでかけつけるほどなんですよ」と奥さん。

「いやあ、練習の後の月一回の飲み会が楽しみでね。試合のあとの飲み会のキャプテンといった所かな？」

「実力？内緒です」

毎週月曜の夜はパパの練習日。末っ子の倫朗くんを先頭に森下家はみんなで関屋小の体育館へでかけてボールひろいや乱打の手伝い。

「スポーツしてよかったこと？そう、家族共通の話題があることと健康。そして友だちが増えて夜遅くまで飲んだり話したりすることかな？」と、楽しそうに話してくれました。

学校町三にお住まいの森下さんはスポーツ一家。

お父さんは関屋小のトバレー、お母さんはママさんバレー〝関屋クラブ〟のメンバー、長男の哲朗くんは中学生でバレー部員。このバレーボール一色の中で、学校開放で週一回、土曜日に関屋小の体育館で練習をしています。

「お父さんの方は？」の問いに「いやあ、私の方は学生時代も特に何もしないし体はにぶい方。ママさんバレーボール一色の中で、学校開放で週一回、土曜日に関屋小の体育館で練習をしています。

「お父さんの方は？」の問いに「いやあ、私の方は学生時代も特に何もしないし体はにぶい方。ママさんバレーボール一色の中で、学校開放で週一回、土曜日に関屋小の体育館で練習をしています。

「お父さんの方は？」の問いに「いやあ、私の方は学生時代も特に何もしないし体はにぶい方。ママさんバレーボール一色の中で、学校開放で週一回、土曜日に関屋小の体育館で練習をしています。

「お父さんの方は？」の問いに「いやあ、私の方は学生時代も特に何もしないし体はにぶい方。ママさん

食後のひととき、話題はやっぱりバレーボールのこと。

暮らしの中にスポーツを！

スポーツで若返り！

瀬戸さん夫妻

ゲートボール

初めてゲートボールをした時、ご主人は「ウン！これはいいな！」と思ったそうです。「単純そうですけど、春先の芝生の芽が出てきた時と草が深くなった時とでは調子がかわってなかなか味わい深いものがあんですよ」と話してくれました。

ご主人の方は昨年六月に同クラブができて以来のメンバーで、奥さんの方は、今年四月からメンバーになったばかり。

ご夫婦でゲートボールを楽しんでいるのは**瀬戸昌義・美代子**夫妻。（写真）

このお二人の年齢を足すと百四十歳をこえるなんて信じられますか？とてもお若い老夫婦です。

瀬戸さん夫妻が所属しているグリーンゲートクラブは会員が約七十人。

ご主人の方は昨年六月に同クラブができて以来のメンバーで、奥さんの方は、今年四月からメンバーになったばかり。

初めてゲートボールをした時、ご主人は「ウン！これはいいな！」と思ったそうです。「単純そうですけど、春先の芝生の芽が出てきた時と草が深くなった時とでは調子がかわってなかなか味わい深いものがあんですよ」と話してくれました。

今は「ゲートボールをしている時が一番楽しい。今まで歩くのに怠けていた人が、体の調子がよくなって、競技中、小走りに走れるようになった。そんなとき、勧めてよかったなあー」と思うそうです。

「私自身、子どもの頃は体が弱くて弱くて、人生五十年と思ってたんですが、どうしてどうして、年をとると近くのグランドで毎日午前九時から二時間ほどゲートボールを楽しんでいるそうです。今まで歩くのに怠けていた人が、体の調子がよくなって、競技中、小走りに走れるようになった。そんなとき、勧めてよかったなあー」と思うそうです。

「私自身、子どもの頃は体が弱くて弱くて、人生五十年と思ってたんですが、どうしてどうして、年をとると近くのグランドで毎日午前九時から二時間ほどゲートボールを楽しんでいるそうです。

奥さんは「ゲートボールを通じて友達はたくさんできたし、我が家はみんなのたまり場です。主人の退職後毎日どうしようかと心配してましたけど杞憂でしたね」

「孫の子守りにきてよ！」といわれても行く暇もないほどです」とともにこやか。

「健やかに老いるのが美しく生きること。それには体を動かすのが一番」と、インタビューが終るやいなや「ばあさん、行こうか！」と練習に出かけられました。

奥さんは「ゲートボールを通じて友達はたくさんできたし、我が家はみんなのたまり場です。主人の退職後毎日どうしようかと心配してましたけど杞憂でしたね」

「孫の子守りにきてよ！」といわれても行く暇もないほどです」とともにこやか。

「健やかに老いるのが美しく生きること。それには体を動かすのが一番」と、インタビューが終るやいなや「ばあさん、行こうか！」と練習に出かけられました。

奥さんは「ゲートボールを通じて友達はたくさんできたし、我が家はみんなのたまり場です。主人の退職後毎日どうしようかと心配してましたけど杞憂でしたね」

「孫の子守りにきてよ！」といわれても行く暇もないほどです」とともにこやか。

「健やかに老いるのが美しく生きること。それには体を動かすのが一番」と、インタビューが終るやいなや「ばあさん、行こうか！」と練習に出かけられました。